

会 議 録

会議の名称	令和7年度所沢市自立支援協議会 第1回定例会
開催日時	令和7年5月27日（火） 14時から15時40分
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室3・4号
出席者の氏名	会 長 坪井 弘直 委 員 涌井 勝敬、真壁 毅、中川 美奈子、 倉部 陽司、田島 誠、伊東 晃子、大門 竜司、 藤澤 知咲、高橋 育子、横山 創、菅原 恵、 南場 千恵、柚原 正子、海江 泉、坪井 健、 安田 美代子、大熊 有紀、内海 文江、 内野 誠、松本 弘、室田 由美、下平 美智代
欠席者の氏名	竹本 耕造、豊田 淳一
議事	(1)所沢市自立支援協議会の協議内容及び部会の編成について (2)令和6年度各部会活動報告及び令和7年度各部会活動計画について (3)令和6年度所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告について
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 所沢市自立支援協議会委員名簿 ・ 所沢市自立支援協議会とは（資料1） ・ 所沢市自立支援協議会運営要綱（資料2） ・ 令和6年度各部会活動報告書及び令和7年度各部会活動計画書（資料3） ・ 令和6年度相談支援事業業務委託事業報告書（資料4）
担当部課名	福祉部 大館次長 障害福祉課 吉里課長、田村主幹、新井主査、長谷川主査、 高安主査、井上主事 こども福祉課 藤澤課長、宮武副主幹、山本主査 保健センター健康管理課 一色課長、小野寺主幹、千葉主幹 （事務局）福祉部障害福祉課 04-2998-9116

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	1 開会
	・課長あいさつ
	2 委嘱状交付
事務局（市）	3 部長あいさつ（次長代読）
委員	・委員あいさつ
	4 会長・副会長の選出
委員・事務局	・委員より会長に坪井弘直氏、副会長に海江泉氏が推薦され、全会一致で承認される。
会長・副会長	・会長あいさつ ・副会長あいさつ
事務局（市）	・所沢市情報公開条例第25条より、会議は原則公開、会議録の記載方法は要約方式、発言者名の記載は省略、議長の承認により確定とする旨を提案、全会一致で承認される。 ・配布資料の確認。 ・所沢市自立支援協議会運営要綱の規定により、会議の議事進行を坪井会長に委任。
会 長	・傍聴希望者数の確認（傍聴希望者2名）
	・傍聴人入室
	5 議事
	（1）所沢市自立支援協議会の協議内容及び部会編成について
事務局（市）	・自立支援協議会の協議内容及び部会の編成について、資料1のとおり説明。 ・定例会、実務者会議、部会について説明。
委 員	・質疑応答・意見なし。 ・部会の編成について全会一致で承認される。
	（2）令和6年度各部会活動報告及び令和7年度各部会活動計画について
委 員 （さぽっと）	こども部会令和6年度活動報告（内容は資料のとおり） 【例年】 ・大きく分けて2つの取り組みを行っている。 ・1つ目は、こどもの障害特性を2つ（知的と情緒）に分けて、その特性ごとの課題に取り組んでいる。ライフイベントや環境の変化における関係機関とのスムーズな引継ぎ（バトンパス）をテーマとしている。 ・2つ目は、放課後等デイサービス事業所見学会の実施。 【令和6年度】

	<ul style="list-style-type: none"> ・知的グループでは、引継ぎツールとして「育ちの記録」を作成。運用時期等については調整中。 ・情緒グループは、教育、医学、家庭の3領域に分け、各専門家から講演をいただいた。 ・放課後等デイサービス事業所見学会については、6事業所の見学を3回に分けて実施。アンケートの中では、自分で探す負担が無いので良かったという意見をいただいた。参加者は主に小学校の先生。(中学校の先生も初めて参加した) <p>こども部会令和7年度活動計画(内容は資料のとおり)</p> <p>【令和7年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度も知的グループ、情緒グループの2グループに分けて実施する。 ・知的グループについては、児童の意向を反映した支援方法やケース会議のあり方、成功・失敗事例を共有することで支援力のさらなる向上を目指す。 ・情緒グループについては、引き続き情緒障害の現状認識をするとともに理解を深めていく。 ・放課後等デイサービス事業所見学会については、規模を拡大し開催予定。市内を4つのエリアに分けて、事業所の特色の違いを見学する。事業所と調整中のため、決定次第連絡する。
<p>委員 (こみゅーと)</p>	<p>重症心身障害部会令和6年度活動報告(内容は資料のとおり)</p> <p>【令和5年度】 ※令和5年度発足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症心身障害の定義を自立歩行困難な重度知的障害の方(18歳以上の医療的ケアを必要とする方を含む)と決めた。 ・重症心身障害の方を受け入れている事業所の見学会や、事業所の方々と現状の報告会等を行った。 <p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のネットワークづくりをテーマとし、部会を実施。多くのサービス提供事業所に参加していただき、1年かけて顔の見える関係づくりを行った。 ・お互いの顔を見知ることによって、よりよい支援や空き情報の相談がしやすくなったという声が挙がった。 ・部会のない月には関係事業所にアンケートを配布、重症心身障害児者の受入れ状況、空き状況等データを収集してい

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重症心身障害児者が利用できる補助やサービス、窓口についての勉強会を行うことにより、事業所内で相談する際の自助となり、また新しいサービス等を考えるきっかけとなる。 地域課題解決のために、重症心身障害児者を取り巻く環境や課題の洗い出しをおとなとこどもに分けて行った。どちらの事例からも、家族が抱え込んでしまう傾向がある事、制度はあっても家族が安心して利用できるような土壌ができていないという意見が挙がった。また、福祉面だけではなく医療面の受診先が少ないという話も挙がった。 <p>重症心身障害部会令和7年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <p>【令和7年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 6年度に挙がった課題を解決するには、民間の努力では難しいのが現状。 事業所別に対象者や事業所へのアンケート調査を行い、具体的に数値化・グラフ化することで行政や市長に施策提案できるような根拠づくりを行う。
<p>委員 （所沢どんぐり）</p>	<p>こころ部会令和6年度活動報告（内容は資料のとおり）</p> <p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> こどものメンタルヘルスと、多問題家族に焦点を当てた委員会を実施した。 全体会では、関係機関が集まる交流会の実施や、講演会も実施した。 部会を行うことで役割や機能を知り、相互理解を深める機会となり、地域支援のネットワーク強化と全体的な支援の質の維持向上につながると考えられる。 課題として、こどもの支援は健常な親を前提に制度がつくられていることや、家庭全体をみる存在がないことが挙げられる。 今後の展望としては、年齢で途切れない支援もしくはスムーズなつながりが必要であり、多機関、多職種が気軽に意見交換をするための支援者会議等を行い、重層的な支援をコーディネートできる窓口と支援体制を構築する。 <p>こころ部会令和7年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <p>【令和7年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（にも包括）が何なのか、改めて見直す。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり話し合いたいという意見が出たので、テーマの中で話題提供と、課題解決のための検討会議を開き、具体的な事例を聞いて、そこで見えてくる課題について、私たちに何ができるかについて考えていく。
<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<p>研修部会令和6年度活動報告(内容は資料のとおり)</p> <p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修委員、研修企画チームのメンバーで、交流研修と職員間のコミュニケーションをテーマとし、話し合いを行った。 ・研修企画チームを中心に現場のニーズに即した研修を企画し、研修委員にはスーパーバイズしていただく形で進めた。 ・障害者虐待防止の研修動画を配信した。 ・上半期の研修は、実践報告及び交流研修を10月に実施。80名近くの参加者があり、満足度の高い研修となった。 ・下半期は障害者支援現場における職員間のコミュニケーション向上に関する研修として、リフレクティングという技法を用いた対話の体験を行った。新たな気付きを得る機会となり、満足度の高い研修だったと多数の評価をいただいた。 <p>研修部会令和7年度活動計画(内容は資料のとおり)</p> <p>【令和7年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も研修企画チームを中心に2つの研修を企画する。 ・虐待防止の動画配信については、県が出している虐待防止の動画を参照していただく。 ・実施する研修については、各事業所が抱える課題や人材育成に関することなどをテーマとして研修を企画していく。 ・交流研修についても引き続き実施予定。
<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<p>相談支援部会令和6年度活動報告(内容は資料のとおり)</p> <p>【令和6年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委託事業を中心としたグループ会議と年2回全体会を実施した。制度の勉強会や事例を通して、個人の抱える課題の共有や学びの場としての成果があった。 ・グループスーパービジョンや相談しゃべり場については、関心のある人が自主的に参加できる方法で実施。地域のネットワークの中で自発的に学び、連携を深め、モチベーションアップやスキルアップに役立っている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援従事者初任者フォローアップ研修を6年度も実施。行政職員との連携強化や、様々な視点の獲得ができ、相談支援の質の向上も期待できる研修となった。 ・部会の中で、個々が抱えるケースに対し助言をもらうことで学びの機会にはなったが、自立支援協議会として求められる地域課題の抽出の場には至らなかった。また、グループスーパービジョンでは、参加する側は満足度が高かったが、事例提供側が負担を感じやすく、積極的な事例提供がなかった。 ・相談支援体制については、協働モデルの検討を行った。 <p>相談支援部会令和7年度活動計画（内容は資料のとおり）</p> <p>【令和7年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は各委託事業所と主任相談支援専門員を中心に部会を運営していく。 ・相談支援専門員として現在抱えている課題を集約し解決にむけた話し合いを行っていく。 ・グループスーパービジョンとしゃべり場については、今年度も隔月で開催。 ・初任者研修終了者のフォローアップ研修も実施予定。 ・協働モデルについては、引き続き検討を重ねていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答、意見、感想
<p>委員 (こころ部会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の方は、自発的に困っていることを周りの方に言いづらい状況がある。部会の中で他分野との連携を行うことで、精神障害の方の困りごとを知ることができ、必要な支援をすることができるので、大変良い活動である。
<p>委員 (研修部会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の研修を委員と企画担当で考えて開催している。部会の回数を重ねる中で、1回で終わらずに次につなげるためにはどうするかという話がでた。研修参加者は忙しい中来てくださるので、点と点が線で繋がるような研修を今年度も企画したい。
<p>委員 (こども部会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員としては、障害の方と関わる機会があまりないので、部会に参加している時も略語などが分からないことがある。部会の中では、障害の方が自分とどういう関わりがあるかを常に考えている。フードパントリーを始めたが、障害の認定がもらえない子供たち（グレーゾーンの子供たち）のことを考えさせられる。

<p>委員 (重症心身障害部会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援する関係事業者と関わる機会がなかったが、部会を通して会う機会が増え、連携が取りやすくなった。また、グループワークの中で課題が見えてきて、自分が事業所でできることがないか考えるいい機会となった。今年度は生活介護事業所のアンケートを取るということで、ご家族のサポートができるように、皆さんの意見を聞いて学んでいきたい。
	<p>休憩</p>
	<p>(3) 令和6年度所沢市相談支援事業委託事業所の事業報告について</p>
<p>委員 (基幹相談支援センター)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業所を代表して基幹相談支援センターがまとめて報告。(各事業所の報告内容は資料4のとおり) ・委託相談の内容は、不登校やひきこもり、高齢の家族から親亡き後の相談、入院先から地域生活への移行、新たに福祉サービスの利用希望など様々。それぞれ、他機関との密な連携、チームを作りながら対応している。 ・最近の課題として、ヘルパー事業所のヘルパー不足、虐待対応、利用者や家族からのハラスメントといったものがある。各特定相談支援事業所も含めて苦慮している。 ・相談件数については、微増から増加傾向にある。加えて、継続しているケースや関係機関との連携もある。地域の障害者の困りごと解決のために日々頑張っていると感じるが、社協に偏っている現状が継続しているため、うまく分散できれば、さらに地域と相談支援体制も上手く回る。 ・地域の相談支援体制については、主任相談支援専門員が市内で新たに3名増えた。力のある相談支援専門員が増えてきており、今後ますます相談支援の質の向上、体制の強化に期待している。 ・複数の相談支援事業所が協定を結ぶ協働モデルを昨年度から検討している。相談支援専門員の増員、相談支援事業所の経営と連携の強化をしていきたいと考える。協働モデルを実施すると、協働している事業所の相談支援専門員が集まり会議を行っていく必要がある。そうした取り組みから、相談支援専門員一人一人のスキルアップ、得意分野にとどまらず幅広い分野の相談に応じる力をつけていくことも期待できることや、困難ケースの事例検討も行いやすく、地域で支える基盤作りにつながるので、今年度さらに

	推し進めていきたい。
	・ 質疑応答、意見なし。
	・ 事務局より連絡事項
事務局（市）	・ 次回の定例会は10月頃の開催を予定している。 ・ 詳細については決まり次第改めて通知する。
会 長	本日の議事を終了とする。
	6 閉会
副会長	・ 副会長あいさつ